

ムカシの競馬を読む

平成16年・阪神競馬場
朝日チャレンジカップ
優勝馬:スズカマンボ

© JRA



第111回 10年・20年・30年前の9月



いまから10年前、平成16年の中央競馬は、3連単導入に沸いていた。前号が合併号だったので触れられなかつたが、3連単はまず8月に札幌で試験導入され、9月の阪神・中山から正式導入となつた。当時はまだ9R以降だけの発売で、全レースが対象ではなかつたことを記憶の方も多いだろう。

ちなみに、3連単本格導入後最初の重賞は阪神開幕日に組まれて、いた朝日チャレンジカップ。スズカマンボが勝ち、1、5、3番人気の決着で配当は133390円だつた。

この頃はファンもメディアも高配当に免疫がないので、当時の記事を読んでみると面白い。例えば9月13日のデイリースポーツには「3連単はやっぱりすごいぜ」6頭立てで2万4680円出た!」などといふ、今では考えられない「ニユース」が掲載されている。

い武豊騎手のインタビュー記事を載せている。「やつと勝ちました。あこがれというか、夢でしたからね。本当にうれしいです」というのは普通のコメントだが、「調教師から『抑えていてくれ』って言われていまして。スタートで、わざとゆっくり出たんですよ」というコメントもあり、見出しは「わざと出遅れたんですよ」となっている。「シャダイカグラか!」とツッコミたくなるところだが、ともあれ当時は「さすが天才」という賞賛の報道一色だった。

「日本が生んだ天才ジョッキー」武豊がさん然と輝く金字塔を打ち立てた。4日仏ロンシャン競馬場で行われたムーランドロンシャン賞でスキーパラダイス(社台ファームの吉田照哉オーナー所有)に騎乗した武は欧洲の強豪を擊破、日本人騎手として初めて海外G1優勝の偉業を達成し、パリっ子の大歓声を浴びた

今では日本調教馬の海外G1制覇も「日本調教馬+日本人騎手」の海外G1制覇も普通のこととなつたが、当時は世界の扉が薄く開きたが、當時は世界の扉が薄く開きかけたくらいの時期。この勝利は日本本の競馬ファンにとっても記念すべく1勝であり、強く記憶に残つている方も多いことだろう。

たた、当時は韓国競馬が発展途上すぎて、日本から行つた種牡馬がその潜在能力を發揮する機会も少なかつたように思われる。コネルランサーに続いて平成2年にはラッキーアーラ、プレストウコウ、カツトップエース、ヤマノスキーウ、も韓国に輸出されたが、ラッキーアーラがかろうじて活躍馬を出した程度で、カツトップエースに至つては数頭の産駒しか出さないまま1年で死亡している。

昭和51年から種牡馬になつていた「ネルランサー」だが中央で重賞級の産駒は出ず、馬格のない馬なので種牡馬としての人気も伸びなかつた。そのまま日本で種牡馬を続けるよりも、発展段階にある韓国競馬界に寄贈したほうがよいといふのは良い発想だったと思われる。

〔駿馬が日韓の橋渡し——ダービー馬コーネルランサー号が韓国に寄贈されることになった。東京に住む馬主の久保谷唯三さんがこのほど外務省に申し出たもので、韓国側も『大歓迎』と快諾、寄贈が決まった。今月中に渡韓する予定だが、一足先にその目録が、来日中の斗煥大統領一行に手渡される(後略)」

歓迎。微笑みの貴公子ならぬ大井の貴公子としてファンを熱狂させるか？」

「競馬界もヨン様ブーム!? 人気韓国ドラマ『冬のソナタ』の主演俳優、ヨン様ことペ・ヨンジュンにあやかって命名された競走馬『ヨンサマ』(牡2歳)が、大井競馬で13日から14日に行われる新馬戦でデビューする。本家ヨン様の日本事務所は『本人もきつと喜ぶで』ようこそ

ホリエモンは転入緒戦の高知F級戦でも3着で前途多難と思わせたが、そこから5年間走って高知で14勝。200万円あまりを稼いだ。バル色の強かつた馬主とは対照的に、地道にコツコツ頑張る馬だったようだ。

須す
田だ
レ、大阪日刊スポーツ
1970年東京生まれ

いたが、開催日ではなく場外発売日にスタートしたわけだ。

ターフビジョンの登場によってレースの行方を「アマ」が把握しやすくなり、それに合わせて場内実況のあり方も変わつていったという。また、この当時は場内で貸しラジオ・貸し双眼鏡が盛業だったのだが、後者についてはターフビジョンの登場とともに需要がなくなつていった。

レコードにわいた9日、東京競馬場は3万2千人のファンと6億円を超す売り上げでにぎわった。新しく設置された大型ディスプレイ「オーラビジョン」が人気を呼んだもので、スタンドは競馬を開催しているときのような熱氣につつまれた」と記事はこの後、それまでの場外発売日よりも大きく盛り上がった。東京競馬場の様子を伝えている。今まで言うターフビジョンのデビュ

その点最近の韓国競馬では日本出身種牡馬の産駒も活躍するようになつた。スルーオグリーンやイングランディーレが韓国ダービー馬を、メイセイオペラが皐月賞にあたるKRAマイルC優勝馬を、ビワシンセイキが現地G1の大統領杯優勝馬を出すなどしている。

一方日本ではこの月こんな「五一小説」が、10日付の報知新聞から、「競馬観戦は新しい時代に突入。中山競馬場がヨシノエデンの日本

月だが、それ以上に競馬史としてはこの出来事だろう。平成6年9月5日付の中日スポーツから。

消だつた。人間の名前をつけるといふのは、すべたときのことを考える限りスキーなことである。

実はこれより後にデビューした
ある馬はタレントの名前を盛り込んでいたところ所属事務所から訴訟を起こすと騒がれ、大変な目に遭つたことがある。それに比べると「ヨン様」の事務所が鷹揚であったのはなによりだった。

こちらのヨン様はとて、デビ

鷹雄